

論文の内容の要旨

論文題目 都心部の総合的な魅力の分析・評価手法と
それを活用した道路空間・都市交通のマネジメント方策立案に関する研究

氏 名 増田 博行

モータリゼーションの進展に伴う購買形態の変化や、都心部の渋滞、都心部の渋滞対策として整備されたバイパス等の郊外部の道路整備、大規模店舗に係る制度面の変化などにより、近年、大規模商業施設の郊外立地が進んだ。このような変化に伴い、特に地方都市においては、都心部における居住人口の減少と商業機能の低下、業務機能・文化交流機能における中心性の低下など、都心部の地位低下が顕在化してきた。

魅力ある都心部を形成するためには、まちの魅力の構成要素のひとつである公共空間としての道路空間のマネジメントや、道路交通を含む都市交通全体のマネジメントのあり方を、都心部の魅力への影響を踏まえつつ検討することが必要である。その際、渋滞対策、空間整備、公共交通施策、商業施設整備など、都心部の魅力に影響のある各種要因間のトレードオフ関係や相対的な影響の程度を考慮した分析が不可欠であり、また、都心部と郊外拠点等との関係にも留意する必要がある。

以上のような問題意識を踏まえ、本研究では、都心部のまちづくりをまちの魅力と道路空間、都市交通という切り口から総合的に考えるための都心部の総合的な魅力の分析・評価手法とそれを活用した都心部マネジメント方策立案のプロセスについて提案を行った。

以下に、本論文における各章の構成を以下示す。

第1章では、現状の地方都市における都心部の問題を踏まえた本研究の背景を示したうえで、本研究の目的である、都心部のまちづくりをまちの魅力と道路空間、都市交通という切り口から総合的に考えるための「都心部の総合的な魅力の分析・評価手法の提案」と、「それを活用した都心部マネジメント方策立案の検討プロセスの提案」について示す。

第2章では、我が国が置かれている都市交通及び都心部の現状と課題を整理するとともに、それに対応した既往研究に基づく分析方法や国内外における先進的取り組み事例を収集・整理したうえで、その課題を抽出し、これらの課題を解決するための「都心部の魅力を総合的魅力としてとらえた分析手法および評価手法」と「実際の都市行政において活用できる、都市毎の個性を踏まえたマネジメント方策立案のプロセス」の必要性を提示している。

第3章では、第2章で示した、現状や課題を踏まえ、様々な都心部の問題に対応するための「都心部の総合的な魅力の分析・評価手法」と「それを活用した道路空間・都市交通のマネジメント方策立案のあり方」を示している。

第1の都心部の総合的な魅力の分析・評価手法については、「都心部の魅力の分析・評価および対策立案の総合化」と、「分析・評価における空間スケールの総合化」、および、「個人の各種行動への時間配分に着目した都心部の魅力分析」の提案を行っている。

第2に、多段階のPDCAサイクルによる都心部におけるマネジメント方策の検討プロセスの提

案を行っている。ここでのポイントは、都市毎の個性を踏まえ実際の都市行政において活用できる、分析やマネジメント方策立案のプロセスであり、単なる「プラン」の立案ではなく、具体的な実施までを見据えたマネジメントサイクルをイメージした計画立案から分析・評価、実施に至るプロセスである。

第4章では、広域ブロック・都市圏・都心部の3つの圏域レベル分析のうち、広域ブロックと都市圏に関する分析手法の提案を行っている。

広域ブロックに関する分析により、①各都市の都心部が有する魅力の特徴を、他都市との相対的な関係から把握することが可能となり、都市の特徴を踏まえた都心部の問題点把握とその対応策の検討も可能となる。また、②本研究のケーススタディとなる福岡都心部の九州地域における位置づけを把握している。

都市圏に関する分析では、福岡都市圏における福岡都心部(天神地区)とその他拠点について、そのポテンシャルおよびアクセス手段・商圈・購買活動の違いなどを明らかにするとともに、都心部とその他拠点との役割分担関係を示している。この分析により、都心部への目的地選択要因には、アクセス条件に加えて、魅力ある歩行空間、駐車場から都心中心部までのアクセス、また、都心部の集積や選択の多様性などの都心部固有の魅力などの存在が確認される。これは、郊外拠点との差別化による都心部固有の魅力や、回遊空間としての魅力、あるいは、自動車も含む複数の交通手段の連携強化による交通環境の改善などが都心部の魅力向上の重要な要因であることを示唆している。

第5章では、3つの圏域レベルの分析のうち、都心部に関する分析手法の提案を、福岡都心部を対象として行っている。都心部の魅力について、都心来訪者の都心部内だけでの評価ではなく、自宅を出発して帰宅するまでの個人の一連の行動をとらえた魅力分析を提案し、行動の種類ごとに使える時間の長さ、行動の場としての空間や拠点の魅力とに着目した総合的な評価を行うとともに、個人の詳細な行動を捉えるための移動体通信機器(PEAMON)を活用した都心部行動の詳細分析と詳細行動データを用いた都心魅力度モデルを構築している。今回構築した都心総合魅力度モデルにより、自宅からのアクセス時間変化に加え、都心部内の行動における時間と空間の配分によっても、その魅力度の違いを計測することを可能としている。これにより、都心部としての拠点自体の魅力改善、歩行者空間整備による快適性の向上、都心部内の移動しやすさの改善、道路整備や公共交通機関整備による都心への所要時間短縮など、道路空間施策や都市交通施策等を中心として、複合的な都心部施策の総合的な評価が可能となる。

第6章では、第5章で構築した都心総合魅力度モデルのうちの、都心魅力度を計測する部分である都心魅力度モデルを用いて、第4章での都市圏目的地選択モデル、広域目的地選択モデルそれぞれと連動した総括的シミュレーション分析手法を提案している。また、都心魅力度モデルと都市圏目的地選択モデルの連動したモデルについて、福岡都市圏の1993年および2005年のパーソントリップ調査データおよびゾーン間交通条件データを活用し、現況再現性の検証を行っている。本研究で提案するモデルは、定量的な時系列の変化を分析・評価できるものであり、また、都心アクセス条件に加え、都心滞在時間の増加、都心魅力度(集積、界索性・景観等)の変化等、様々なシナリオの感度を分析し、各種施策の影響評価を可能とするものである。

第7章では、本研究での提案に基づき、福岡を対象とした道路空間・都市交通マネジメント方策の検討を行っている。そのプロセスの中で、個別施策の評価を行った後に効果の期待できる施

策パッケージの立案と評価を行い、その結果に基づき福岡における複合的な道路空間・都市交通マネジメント方策を提案している。この段階的な評価によって、施策の組み合わせにより個別施策の効果がより一層発揮される場合や、あるいはその逆の場合など、より有効な施策の評価が可能となり、歩行者空間の充実や沿道の魅力向上等の都心部の回遊を促す施策や、自動車と公共交通サービスとの連携を十分に図りながら、フリンジパーキングを中心とした施策を展開することの有効性を定量的に示している。

第8章では、結論として、次に示す2点をまとめている。第1に、都心部のまちづくりを総合的に評価するため、都心部の魅力を構成する各種要因の相互関係も考慮しながら、まちの魅力と道路空間、都市交通という切り口から都心部の総合的な魅力を分析・評価する一定の手法を提案していることである。第2に、それを活用し、単なる「プラン」の立案ではなく具体的な実施までを見据えたマネジメントサイクルをイメージした検討プロセスを提案していることであり、これは、都市毎の個性を踏まえ実際の都市行政において活用できる分析やマネジメント方策立案のプロセスの提案である。特に、複数の利害関係者が複雑に関係する都心部において、魅力あるまちづくりのための具体的施策を実際に推進していくためには、計画立案から分析・評価、実施に至る合理的かつ客観的プロセスを示し、必要に応じて民意とのフィードバックを図りながら合意形成を図っていく必要があり、本研究で提案した都心部の総合的な分析・評価手法と検討プロセスは、このような複数存在する利害関係者の合意形成を進めるうえでも有効と考えられる。